



# 第100回海洋教育フォーラム に協賛しました 海にみらいを求めて！

(公社)日本船舶海洋工学会海洋教育推進委員会は、令和7年3月8日(土)三笠講堂において海洋教育フォーラムを開催しました。このフォーラムは、若者を主体とした多くの国民に船や海に馴染んでもらうことを期待して開催しているもので、2008年(平成20年)東京海洋大学での開催を皮切りに16年間(東日本大震災の年は中止)全国で開催し、この度は100回目の記念すべき会となり約100名の方が参加されました。

節目のフォーラムであることから日本船舶海洋工学会 橋本州史会長と海洋教育推進委員会の小林正典委員長からご挨拶があり、続いて同推進委員会の田代省三副委員長からフォーラム100回の変遷について紹介がありました。

フォーラムの前段は、研究者による講演がおこなわれました。横浜国大の平川嘉昭准教授は「海を知り・活かすマリンテック」との題で海を生かす技術や海を知る技術について紹介されました。続いて元横浜市立金沢小学校教諭の坂田邦江先生は「西芝アマモ隊を指導して20年、海洋教育への想い」と題してご自分が携わられた20年間の小学生への海洋教育の実績と、将来の海洋教育の方向性等についてお話がありました。

後段は高校生による研究発表が行われました。まず神奈川県立海洋科学高校のマイクロプラスチックチームによる「マイクロプラスチックを探せ！」では、プラスチックは自然界ではパウダー状となり回収は困難であり、今後海中投棄を増やさないことが重要だとの発表がありました。続いて同校のアマモグループにより「アマモ場再生プロジェクト2024」と題して横須賀市の西岸にある小田和湾の磯焼け解消について調査し、天敵はアイゴで海水温度が低下すると食害が無くなることを突き止め、水温が高い時期には防護ネットとの組み合わせも必要であると発表されました。続いては、県立横須賀高校の船の運動の予測と制御チームが「転覆ゼロをめざせ」と題して発表がありました。同高校はSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されており、その課題の一つを防衛大学の協力をえて行っているもので、モデルと実験により船の動きを予測することについて発表がありました。発表した高校生には同会委員長から優秀賞の賞状が授与されました。

今回もセミナー終了後には三笠の紹介ビデオ「語り継ぐ想い」をご覧になっていただきました。

